

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1	前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善について共通理解を行い、職員それぞれがマイプランを作成し、努めてきた。また、「授業づくりステップ1・2・3」を意識した授業が行われるようになってきた。</li> <li>「キャリアパスポート」「一歩実行」において年度初めに目標を立て、継続した取組を実施させることができた。年度末には振り返りを行い、多くの児童が目標を達成することができていた。</li> <li>生活習慣のリズムが取れていない児童が見られ、特にメディア利用の項目については、高学年ほど低い傾向が見られた。「生活リズム100点運動」の実施により改善されつつある。</li> <li>定時退勤日の設定、会議の時間厳守、行事精選等の業務改善を実施し、時間外勤務の削減を行うことができた。</li> </ul>
2	学校教育目標	いのち輝く 鹿島っ子の育成～キラ、ニコ、ドン <small>の</small> 鹿島っ子～
3	本年度の重点目標	①学力の向上 ②特別支援教育の充実 ③心の教育・生徒指導の充実 ④体力の向上 ⑤校内研修の推進 ⑥新しい学習指導への対応

4	重点取組内容・成果指標	中間評価	5	最終評価	主な担当者
---	-------------	------	---	------	-------

(1)共通評価項目						主な担当者	
重点取組			中間評価		最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し		達成度(評価)
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を75%以上にする。	・マイプランの一覧を作成し、校内研修の一部で紹介し、マイプランを共有する。 ・定期的に校内研修のはじめの時間をふり返りの時間に設定する。	・	・	・	○田上、菊次、太田、永池(学力向上)
	○児童の学ぶ意欲が高まる授業の実践(校内研究の充実)	○国語科を中心に授業づくりに関する研修や研究授業を行い、意識調査において、授業が楽しいと答える児童の割合を令和元年度より5ポイント上げる。 ○授業づくりのステップ1・2・3を意識し、ステップを1から2へ、2から3へ上げることでできる教師を80%以上にする。	・事前、事後の研究の充実を図り、児童の興味・関心を高める授業づくりを探る。 ・授業づくりのステップ1・2・3を継続して意識できるようにセルフチェックタイムを2ヶ月に1度設ける。	・	・	・	○古閑、菊次、田川(校内研究)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命や人権について考える授業や集会を行い、保護者アンケート「学校は心の教育や命の大切さなどを熱心に指導している」において80%を目指す。	・友達の良い言動を見つけたら葉っぱに記入して貼っていく「やさしさの木」の取組を年間通して行う。 ・9月に「ふれあい道徳」を設定し、保護者も一緒に考えてもらう場面を設定するなど、参加型の授業づくりを行う。	・	・	・	○小柳、中原、中島(豊かな心)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○年2回(5月、10月)、心のアンケートを実施し、「学校が楽しい」と答える児童の割合で80%を目指す。	・困り感や被害意識のある児童を把握し、早期発見、早期解決を図る。 ・教育相談週間を設け、児童一人ひとりの思いを受け止める。	・	・	・	○白石、山口知(豊かな心)
	◎目標達成に向けて努力しようとする態度の育成	◎「一歩実行」を意識して取り組むことができる児童を80%以上にする。	・1年間毎日続けて取り組むあてを全児童に決めさせ、振り返り習慣をつけて、自分のあてを日々意識させる。 ・取り組み続けている児童を紹介する場を設け、取り組みが継続しない子へ声かけを行っていく。	・	・	・	○山口千、野田(豊かな心)
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・車による送迎を控えるように保護者に呼びかけ、登下校による歩行時間を確保する。 ・休み時間の外遊びを促すために、県のスポーツチャレンジを活用する。学校独自の「鹿島っ子チャレンジ」の取り組みで表彰するなど、児童の意欲を引き出す。 ・給食センターから講師を招き、食育指導をする。 ・給食集会を開き、児童が食を大切に考える場を作る(食に関するアンケート2回実施)	・	・	・	○富永、今村、中原、有森(体づくり)
	○よりよい生活習慣を求める児童の育成 ・生活リズム ・挨拶 ・掃除 ・廊下歩行	○生活習慣の改善が見られる児童65%。 ○語学検定の挨拶や元気な返事ができる児童80%以上。 ○無言排除ができる児童85%以上。 ○勝手に廊下で過ごす児童80%以上。	・早寝・早起き・朝食・メディア・家庭学習について学期に一度100点運動を行い、生活リズムの改善を意識させる。 ・全校朝会等で、今月の生活反省や実践の指導を行うことで実践への意識付けを行う。 ・全校朝会での挨拶運動を行い、その振り返りを自己評価させることで、自ら気持ちの良い挨拶への実践意欲を高める。	・	・	・	○山口知、富永、藤家(体づくり) ○花島 北原 森永(生活指導)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定(毎週水曜日)及び確実な実施(会議等は16:45に終了する)。 ・教職員の時間外勤務について1ヶ月あたり前年度比3%削減する。 ・会議資料の事前配付と提案時間の設定。 ・業務の重複、無駄を省き、前年比5%の行事と会議・積極的な未然防止指導と保護者への確実な説明等、迅速かつ組織的な対応。	・	・	・	○教頭、田川
	○学校行事の精選と会議の効率化	○教育的価値の費用対効果の低い行事の削減と会議の削減。		・	・	・	○教頭、田川

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者	
重点取組			中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し		達成度(評価)
○地域と連携した教育活動	○地域・保護者と学校の連携・協働	○地域人材(保護者を含む)をゲストティーチャーとして授業に生かし、体験学習や環境学習等の充実を目指す(学年2回以上)。 ○地域から支援を得ることによって子どもの生きる力の育成、学力向上など学校課題を改善する。	・年間指導計画の見直しを行い、効果的な地域人材を活用した授業を行う。 ・地域への発信・要請を行い、学力向上サポーターを募集し、週2回放課後学習会を行う。	・	・	・	○教頭、田川、蕪尻
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚	○危機管理マニュアルの周知徹底及び施設設備や教育活動の安全チェックを定期的に実施する。 ○児童の交通事故0をめざす。 ○避難訓練及びその事前指導等を通して児童に危機回避能力を身に付けさせる。	・年3回の避難訓練等の安全指導を強化し、教職員間の危機管理マニュアルを共通理解する。 ・防犯ボランティア、警察署、交通指導員との連携を強化し、情報を共有することで児童の安全を確保する。 ・全校の自己評価及び定期的な集団下校を実施することで、交通安全への実践的態度を養う。	・	・	・	○蕪尻、梶山、倉富、馬場(生活指導)
○特別支援教育の充実	○個に応じた指導、支援の充実	○個別的教育支援計画・指導計画、支援シートの作成100%。 ○特別支援教育に関する専門性の向上。 ○情報共有を定期的に行う(月1回)。	・個別的教育支援計画・指導計画、支援シートの作成のための研修を行う。作成する期間を決めて取り組む。 ・年1回、特別支援教育に関する研修会を実施し、理解を深める。 ・校内支援委員会を中心に、連絡会や学級経営会議でも定期的に情報共有の機会を設ける。連絡会では、テーマを決めて行う。	・	・	・	○山口千、野田(特別支援コーディネーター)

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育					
5	総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>			